

はじめに

人々は住まいの中で愛を育み、子供を育て、家族の絆を深めます。そして本当に良い家は、住む人に優しさややすらぎをもたらし、明日への活力や将来の希望をも与えてくれます。家は人や家族の人生にとって、最も大切な場であり、幸せの器でなければならないのです。

しかし現実はどうでしょう。自分が思い描いていた良い家にめぐり会い、快適な住まいを実現している方は非常に少ないのではないのでしょうか。マイホームは人生を左右するくらい大切な、しかも何千万という大金を支払う生涯最大の買い物なのです。それ故、絶対に失敗は許されません。

家づくりを検討される方の多くは、まず住宅展示場に足を運び、各メーカーのモデルハウスの間取りや外観、大体の価格等の比較を始めることでしょう。そして手元に集めたパンフレットには皆さんもよく目にする様々な謳い文句が並びます。「高気密・高断熱の家」、「高性能住宅」、「長寿命住宅」、「健康住宅」、「省エネ住宅」、「環境に配慮した住宅」…。どれもこれも表面上はごもつともで納得させられそうですが、本物かどうかは実際に住んでみないとわかりません。結局は対応がよかった営業マン、予算に合いそうなメーカー、知名度があり安心できそうなメーカーと絞られ、「たぶん良い家ができるだろう」と期待を抱き、何となく依頼先を決定する方が多いのではないのでしょうか。

住宅に限ったことではなく、世に流通するあらゆる商品、サービスには必ず売る人と買う人が存在しており、売る側は売るために当然工夫をします。また、どんな物や商品にもメリット、デメリットがありますが、売る側にすれば短所はなるべく伏せ、その商品の有利性を最大限に訴えるのが一般的です。そのため、豪華な展示場やカタログ、営業マンのセールストークには隠された問題点がなかなか見えてこないのです。これから家を建てる人は、決して外見上のイメージや価格に惑わされることなく、隠された真実を見抜くだけの知識を持たなければ本当に良い家にたどり着くことはできないのです。

建てられた後で住み心地の悪さに気付いて後悔してもどうにもならないのです。「暖かいといていたのに寒い」とか、「アトピーやぜんそく、花粉症が改善するといったのに以前と変わらない」、「シックハウスの不安はないといていたのに体調がすぐれない」等といった話をよく耳にしますが、クレームをつけたところで「人それぞれ感覚が違います」、「人によって体質が違います」というような何とも悲しい答えしか返ってこず、結局はしょうがないといって諦め、我慢しているケースが多いようです